

CKD? 動画サイトで啓発

慢性腎臓病「若い人も知って」

「CKD」って知ってますか? 慢性腎臓病のことで、心筋梗塞や脳卒中の危険を高め、悪化すれば人工透析や腎移植が必要になる。国内では成人8人に1人が患者と推定され、医学界では「新たな国民病」とも言われる。だが自覚症状もなく、一般の認知度は低い。そんな状況に危機感を持った自治医科大(下野市)の医師らが、動画投稿サイトを通じた啓発に取り組んでいる。



動画投稿サイト「ユーチューブ」にアップされている啓発動画。プロの俳優を起用した。安藤教授提供

「早期に発見し、生活習慣の改善を含めた適切な治療を開始すれば、重症化を防ぐことができます」。パソコン画面から、プロの俳優がさわやかな笑顔で語りかける。動画投稿サイト「ユーチューブ」にアップされているCKD啓発動画の一場面だ。

動画を制作した自治医大腎臓内科透析部の安藤康宏教授(55)は「ユーチューブなら幅広い世代が見ている。医師が偉そうに話す今までの啓発ビデオじゃ、若い人に見てもらえない」。

CKDは、腎臓の機能が通常の6割以下になるか、尿たんばくなどの異常が3カ月以上続く状態をいう。自覚症状はなく外見の変化もない。だが心臓や血管の病気を併発する危険性は約3倍ともいわれ、悪化すれば腎臓の機能が失われる。生活習慣病の一種で、治療も運動不足の解消

自治医大の医師ら 認知度低く新手段

や食生活の改善などだ。国内では約1330万人の患者がいると推定されるが、認知度は低い。安藤教授らが今年3月、宇都宮市と横浜市で街頭調査を行ったところ、10〜70歳の男女計652人のうち、CKDを「聞いたことがある」と答えたのはわずか4%だった。

職場などの健康診断の尿検査でたんばくが陽性となり、再検査で血液検査をすればCKDかどうかかわかる。だが、「自覚症状もないしCKDの認知度も低いため、再検査には半数ほどしか来ない」という。

そんな状況を変えようと制作した動画。昨秋、ユーチューブに投稿した完全自主制作の第1、2作は、半年ほどで約5千回再生された。さらに、映像プロダクションの協力を得てプロの俳優も起用した第3、4作を4月に投稿。1カ月で約1千回再生された。

第4作では、俳優が「実際に子どももかかるし、男女問わず危険性があるんです。自分だけは大丈夫なんて思わないで」と、尿検査で異常があれば検査を受けるよう呼びかける。啓発は今後も続け、年内には第5作も制作する予定だ。動画はユーチューブで「CKD」と検索すれば視聴できる。

(山岸玲)